

〇●〇聴覚障がいについて知ろう〇●〇

聴覚障がいとは、聴覚の機能になんらかの障がいがあるために、聞こえにくい、または聞こえなくなっている状態をいいます。

生まれつき聴覚に障がいのある人もいれば、突発性難聴などで、人生の途中から耳が不自由になった人もいます。

聞こえ方もそれぞれ差異があり、話し言葉が聞きとりにくい、音がひずんで聞こえる、低い音が聞こえにくいなどさまざまです。

困っていること

- ・ 外見ではわかりにくい障がいのため、周囲に気づいてもらえないことがあります。
特に中途失聴の場合は、話せる人も多く「呼びかけたのに無視された」などと誤解されることがあります。
- ・ 手話を使えばわかると思われます。
聴覚障がいのある人が手話を使えるとは限りません。手話を習得していない人も大勢います。
- ・ 放送や呼びかけに気づかないことがあります。
銀行や病院などで不在だと思われることがあります。店内放送や駅の構内放送に気づかず、適切な行動がとれないことがあります。

サポートするときのポイント

- ・ コミュニケーション方法を確認しましょう。

コミュニケーション方法が適切でないと、話を伝えることができません。

聴覚障がいのある人とのコミュニケーション方法は、「手話」「筆談」「口話（口の形を読み取る）」などがあり、聞こえの程度、失聴した年齢、言語力、教育歴、家庭環境などによって、一人ひとり主とする方法は異なります。

- ・ 口話で伝える場合は、向かい合った状態で、口の動きを、大きくしゆっくり話しましょう。

- ・ 筆談をするときは、短く簡潔に書くこと。記号や図を用いて、わかりやすく表現することをこころがけましょう。

困っている様子がわかったら、声をかけ、意思を確認してサポートしましょう。

耳マークについて

聞こえが不自由なことを表す国内で使用されているマークです。このマークを提示された場合は、相手が「耳が不自由である」ことを理解し、コミュニケーションの方法に配慮ください。



災害時にサポートするときのポイント

- ・ 災害を知らせるサイレンやアナウンスが鳴っていても気づかないことがあります。緊急放送などで避難指示が発令された場合はすぐに知らせましょう。
- ・ 放送などが聞こえないため、食料や飲料水などの支援が届かないことがあります。放送があった場合には身振りや筆談などで伝えるようにしましょう。